I·O DATA

Ultra160 SCSI対応 10000rpm 外付型ハードディスク

# HDX-S36C

# 取扱説明書

株式会社 アイ・オー・データ機器

96106-01

## 【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
3) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
4) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
5) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
6) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。
7) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
8) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
9) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。


- I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft,Windows,Windows NTは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

## 必ずお守りください

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

**This product is for use only in Japan.　We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.**

## 警告および注意表示

| | |
|---|---|
| ⚠警告 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
| ⚠注意 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。 |

## 絵記号の意味



この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「発火注意」を表す絵表示



この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「分解禁止」を表す絵表示



この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「電源プラグを抜く」を表す絵表示

# ⚠ 警告




**本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。**




**煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。**

電源を切ってコンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。




**本製品を修理・改造・分解しないでください。**

火災や感電、やけど、動作不良の原因になります。
修理は弊社修理係にご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。




**本製品を取り付ける場合は、必ず本書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。**

- 接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。故障や動作不良の原因になります。
- 接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因になります。




**本製品の取り付け、取り外しの際は、必ず本書で、取り付け取り外し方法をご確認ください。**

間違った操作を行うと火災・感電・動作不良の原因となります。




**本体を濡らしたり、お風呂場では使用しないでください。**

火災・感電の原因となります。お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。




**濡れた手で本製品を扱わないでください。**

感電や、本製品の故障の原因となります。

# ⚠ 注意




## 本製品を使用中にデータなどが消失した場合でも、データなどの保証は一切いたしかねます。

ハードディスクは消耗品です。
故障に備えて定期的にバックアップをお取りください。




## 本製品は以下のような場所で保管･使用しないでください。

故障の原因になることがあります。

- ●振動や衝撃の加わる場所
- ●直射日光のあたる場所
- ●湿気やホコリが多い場所
- ●温度差の激しい場所
- ●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
- ●強い磁力電波の発生する物の近く
  （磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
- ●水気の多い場所（台所、浴室など）
- ●傾いた場所
- ●腐食性ガス雰囲気中（$Cl_2$、$H_2S$、$NH_3$、$SO_2$、$NO_X$など）
- ●静電気の影響の強い場所




## 本製品は精密部品です。以下の注意をしてください。

- ●落としたり、衝撃を加えない
- ●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
- ●重いものを上にのせない
- ●本製品のそばで飲食・喫煙などをしない




## アクセスランプ点灯中に電源を切ったり、パソコンをリセットしないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。




## 本製品（ソフトウェア含む）は、日本国内仕様です。

本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、およびアフターサービスなどを行っておりません。あらかじめ、ご了承ください。




**本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物が入らないようにしてください。**




**本体についた汚れなどを落とす場合は、柔らかい布で乾拭きしてください。**

- ●洗剤で汚れを落とす場合は、必ず中性洗剤を水で薄めてご使用ください。
- ●ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使用しないでください。
- ●市販のクリーニングキットを使用して、本製品のクリーニング作業を行わないでください。故障の原因となります。




**本製品内部で結露させたまま使わない。**

本製品を寒い所から暖かい場所へ移動したり、部屋の温度が急に上昇すると、内部が結露する場合があります。そのまま使うと誤動作や故障の原因となる場合があります。時間をおいて、結露がなくなってからお使いください。




**冷却ファンに指や物を入れない。**

けが、本製品の故障の原因となります。




**冷却ファンからの排気を妨げないようにする。**

壁と少し離すなど、冷却ファンの周りを空けてください。

# お読みになる前に

このたびは、「HDX-S36C」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
お使いの前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

## 呼び方

| 呼び方 | 意　味 |
|---|---|
| **Windows 2000** | Microsoft® Windows® 2000 Operating System |
| **Windows Me** | Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System |
| **Windows 98** | Microsoft® Windows® 98 Operating System, Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating Systemの総称 |
| **Windows NT 4.0** | Microsoft® Windows NT® Version 4.0 Operating System |
| **Windows Me/98** | Windows Me, Windows 98の総称 |
| **Windows Me/98/NT 4.0** | Windows Me, Windows 98, Windows NT 4.0の総称 |
| **Windows** | Windows 2000, Windows Me, Windows 98, Windows NT 4.0の総称 |

## マークの説明




**注意**
本製品を使う上で、注意するべきことが書かれています。




**参考**
本製品を使う上で、役に立つことが書かれています。

# もくじ

必ずお守りください ..... i
お読みになる前に ..... v
もくじ ..... vi

**はじめに** ..... **1**

**箱の中には** ..... 2
**動作環境** ..... 4

**取り付ける** ..... **7**

**各部の名称・機能** ..... 8
**添付品を取り付けよう** ..... 10
**SCSI-IDを設定しよう** ..... 12
**接続しよう** ..... 13
**接続状態を確認しよう** ..... 15
**フォーマットしよう** ..... 17

**付録** ..... **39**

**困った時には** ..... 40
**パーティションの基礎知識** ..... 44
**別売オプション品** ..... 49
**ハードウェア仕様** ..... 50

サポートセンターへのお問い合わせ ..... 51
修理について ..... 52

# ***Memo***

# はじめに

**箱の中には** ・・・・・・・・・・・・・・・・・2

箱の中のものを確認します。

**動作環境** ・・・・・・・・・・・・・・・・・4

本製品を使うことができるパソコン環境を説明します。

# 箱の中には

箱の中には下記のものが入っています。

□にチェックをつけながら、ご確認ください。

万が一不足品がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

**箱・梱包材は**

大切に保管し、修理などで輸送の際にお使いください。

**SCSIボードについて**

本製品にSCSIボードは添付されていません。

必要な場合は、別途お買い求めください。

SCSIボードについては、【SCSIボード】(5ページ)をご覧ください。

**アクティブターミネータについて**

本製品にアクティブターミネータは添付されていません。

必要な場合は、別途お買い求めください。

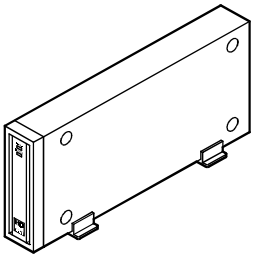
アクティブターミネータについては、【アクティブターミネータ】(5ページ)をご覧ください。

**イラストについて**

実物と若干異なる場合があります。

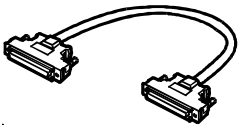
□ **ハードディスク(1台)**

[HDX-S36C]

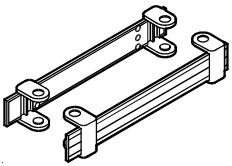


□ **SCSI接続ケーブル(1本)**

[D-sub/ハーフピッチ68ピン⇔
D-sub/ハーフピッチ68ピン:50cm]



□ **スタックアダプタ**



- ☑ HDX-S36C取扱説明書(本書：１冊)
- ☐ ハードウェアシリアルNo.シール(１枚)
- ☐ ハードウェア保証書(１枚)
- ☐ ユーザー登録カード(１枚)




**ユーザー登録は済ませましたか？**

「ユーザー登録カード」に登録方法が記載されています。
登録してから次のページに進みましょう！

# 動作環境

本製品を使うことができるパソコン環境を説明します。

## 対応機種および対応OS

**次の条件を満たすこと**

本製品を接続できるSCSIコネクタがあること。

※推奨SCSIボード、動作可能SCSIボードを装着した機種でもご利用いただけます。

| 対応機種 | 対応OS（日本語版のみ） |
|---|---|
| **NEC PC98-NXシリーズ DOS/Vマシン※1** | Windows 2000,<br>Windows Me※2※3,<br>Windows 98 SE※3,<br>Windows 98※3※4,<br>Windows NT 4.0※5 |

※1　弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認をしています。

※2　フォーマット時に、フロッピーディスクドライブが必要です。

※3　フォーマット時に使うフォーマットコマンド（FDISK）は、Windowsの「MS-DOSプロンプト」上ではご利用いただけません。
（Windowsの「MS-DOSプロンプト」上でFDISKをご利用されるとパーティションが消える場合があります。）

※4　FDISKで複数パーティションを作成する場合は、アップデートが必要です。
このホームページから、FDISKのアップデートをしてください。

http://www.microsoft.com/japan/support/kb/articles/jp263/0/44.htm

※5　Service Pack 4以降が必要です。

## SCSIボード

**本製品の容量に対応したSCSIボードをお使いください**
SCSIボードは、お使いの本製品の容量をサポートしたものをお使いください。
サポートしているかどうかにつきましては、お使いのSCSIボードのメーカーにお問い合わせください。
（下記の【推奨SCSIボード】をおすすめします。）

### ●推奨SCSIボード(Ultra160 SCSIボード)

Ultra160 SCSI転送（理論値:160M/バイト/sec）が可能です。

| | |
|---|---|
| Adaptec社製 | SCSI CARD 29160 |

### ●動作可能SCSIボード(Ultra2Wide SCSIボード)

Ultra2Wide SCSI転送（理論値:80M/バイト/sec）が可能です。

| | |
|---|---|
| 弊社製※ | SC-U2PS, SC-U2PCI |

※ BIOSを「Wide転送を行う」設定にする必要があります。
方法の詳細は、お使いのSCSIボードの取扱説明書を参照してください。
設定しない場合、Ultra2Wide転送を行えません。
ただし、変換アダプタを使い、Narrow SCSI機器を接続した場合は、「Wide転送を行わない」設定にしてください。

## アクティブターミネータ

**「LVD & Single Ended両対応」のものをお使いください**
サポートしているかどうかにつきましては、アクティブターミネータのメーカーにお問い合わせください。
（下記の【推奨アクティブターミネータ】をおすすめします。）

### ●推奨アクティブターミネータ

| | |
|---|---|
| 弊社製 | TA-A68U2<br>LVD & Single Ended両対応 |

# ***Memo***

# 取り付ける


**各部の名称・機能** ・・・・・・・・・・・・・・・・・8

スイッチなどの名前と機能を説明します。

**添付品を取り付けよう** ・・・・・・・・・・・・・・１０

添付品を取り付ける方法を説明します。

**SCSI-IDを設定しよう** ・・・・・・・・・・・・・・１２

SCSI-IDの設定方法を説明します。

**接続しよう** ・・・・・・・・・・・・・・１３

本製品を接続する方法について説明します。

**接続状態を確認しよう** ・・・・・・・・・・・・・・１５

添付品を取り付ける方法を説明します。

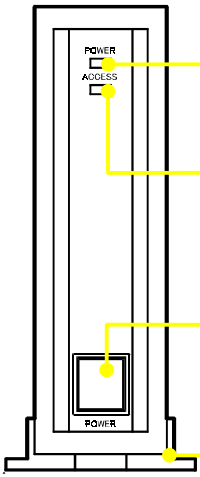
**フォーマットしよう** ・・・・・・・・・・・・・・１７

添付品を取り付ける方法を説明します。

# 各部の名称・機能

スイッチなどの名前と機能を説明します。

## ●前面



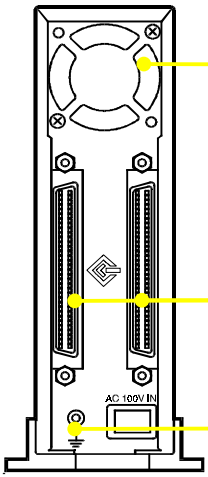

**電源ランプ**
電源を入れると点灯します。

**アクセスランプ**
本製品の読み込み・書き込みによって点滅します。

**電源スイッチ**
電源を入／切します。

**スタンド**
縦置き時に使います。
横置きの際は取り外します。

## ●背面

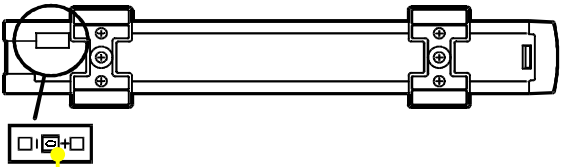



**冷却ファン**
ふさがないよう、ご注意ください。

**SCSIコネクタ (D-subハーフピッチ68ピン)**
SCSIケーブルを接続します。

**アース端子**
アース線を接続してください。

## ●底面



**SCSI-ID設定用スイッチ**

SCSI-IDを設定するスイッチです。

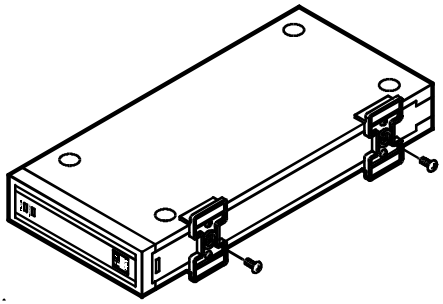
# 添付品を取り付けよう

添付品を取り付ける方法を説明します。

## 横置きで使う（スタックアダプタの取り付け）

### 1 スタンドを取り外します。

スタンドの中央のネジだけを外して、スタンドを取り外します。



参考

**中央のネジ以外は外さないでください**

他のネジはスタンドの取り外しには関係ありません。

**取り外したネジ・スタンドは･･･**

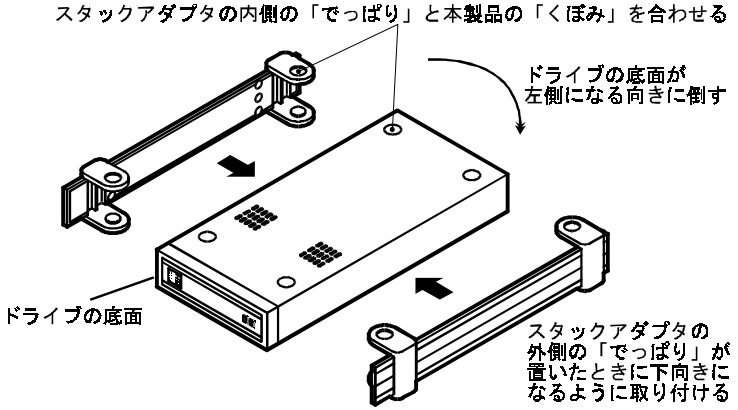
無くさないように保管してください。

またスタンドを外した状態で、ネジを本製品に取り付けないでください。

### 2 スタックアダプタを取り付けます。

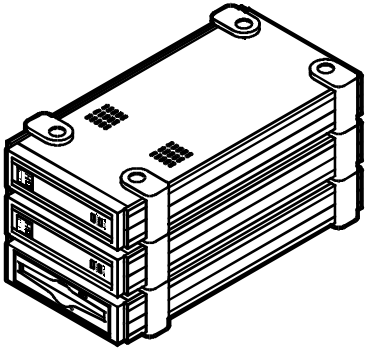
本製品をドライブの底面が左側にくるように倒します。

その後、下の図をご覧になり、スタックアダプタを取り付けます。



## 3 このように重ねてお使いいただけます。

本製品をドライブの底面が左側にくるように倒します。
その後、下の図をご覧になり、スタックアダプタを取り付けます。



参考

**積み重ねについて**

- ハードディスクだけでなく、同じスタックアダプタの付いた弊社MOドライブも積み重ねられます。
- ストーブなどの発熱体から離れた場所に設置してください。
  （動作環境：温度+5～+35℃）
- 積み重ねられるドライブ台数は最大３台です。
- MOドライブは最下段に置いてください。
- ドライブを積み重ねて使用する時に短いケーブルが必要な場合は、別途オプション品（弊社製「A68-A68-S:30cm」等）をお買い求めください。

# SCSI-IDを設定しよう

SCSI-IDの設定方法を説明します。

## SCSI-IDの範囲・条件

0～15の間で、他のSCSI機器と重ならないように設定します。

**SCSI-IDを設定する際のヒント**

- **本製品のみを接続している場合**
  SCSI-ID=**0**：本製品（出荷時設定。変更の必要はありません。）
- **複数のSCSI機器を接続している場合**
  他のSCSI機器と重ならないように、SCSI-IDを設定してください。

**SCSI-ID 7について**

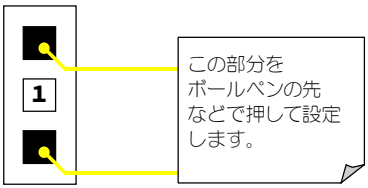
SCSI-ID 7は、通常SCSIボードが使っています。

**SCSIハードディスクから起動している場合**

SCSI-IDを、起動しているハードディスクより大きくしてください。

## 設定方法

本製品は、「SCSI-ID設定用スイッチ」(9ページ)により、SCSI-IDを設定します。



# 接続しよう

本製品の取り付けについて説明します。

**先にSCSIインターフェイスを準備してください**

本製品はSCSIインターフェイスを正しく使えるようにしてから取り付けてください。

**SCSIの制限にお気を付けください**

SCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧になり、接続可能台数や接続SCSI機器の接続ケーブル長の制限を超えていないことをご確認ください。

**SCSIケーブルやターミネータをSCSIコネクタに接続するときは**

SCSI接続ケーブルやターミネータをSCSIコネクタに接続するときは、まっすぐに接続してください。無理な角度で接続するとピンが折れる場合があります。

**本製品以外にもSCSI機器をお使いの場合は**

本製品を接続する際には、なるべくターミネータに近い位置に接続してください。

ターミネータに一番近いところに接続できない場合は、できるだけ短いケーブル（弊社製 A68-A68-S(30cm)など）をお使いください。

## 1 SCSI機器に接続する場合は、ターミネータを取り外します。

本製品を接続済みのSCSI機器に接続する場合は、そのSCSI機器のSCSIコネクタに接続されているターミネータを取り外します。

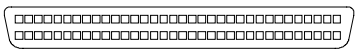
## 2 SCSIコネクタにSCSI接続ケーブルを接続します。

SCSIインターフェイスまたはSCSI機器のコネクタ形状により、使用できるSCSIケーブルが異なります。

**接続するSCSIコネクタと使用するケーブル**

本ページのコネクタ図はほぼ実物大です。

実際に接続するSCSIコネクタと見比べてお使いください。



(D-subハーフピッチ68ピン)

本製品に添付のSCSI接続ケーブル(D-subハーフピッチ68ピン⇔D-subハーフピッチ68ピン)をお使いください。

### 3 本製品のSCSIコネクタにSCSI接続ケーブルを接続します。

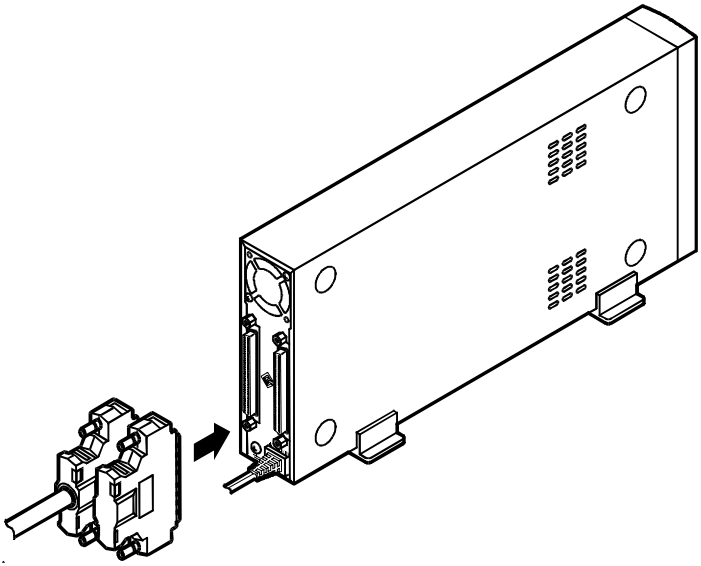
手順2で接続したSCSI接続ケーブルのもう一方を、本製品のSCSIコネクタに、まっすぐに差し込みます。

**接続するSCSIコネクタについて**
本製品のどちらのSCSIコネクタに接続しても同じです。

### 4 もう片方のSCSIコネクタにターミネータを接続します。

本製品にあるもう一方のコネクタに、ターミネータをまっすぐに差し込みます。

**ターミネータについて**
接続するターミネータについて、詳しくは【アクティブターミネータ】(5ページ)をご覧ください。



### 5 ACプラグを電源コンセントに接続します。

**以上で、接続は終了です。**
**【接続状態を確認しよう】(次ページ)へお進みください。**

# 接続状態を確認しよう

接続状態を確認する方法を説明します。



**パソコンの起動方法について**

ここで説明している方法は、一般的なSCSIインターフェイスのものです。
SCSI PCカードなど起動方法が異なるものもあります。
詳しくはSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧ください。

## 1 周辺機器の電源を入れます。

## 2 パソコンの電源を入れます。



**パソコンが正常に起動しない場合**

【パソコンが起動途中で止まってしまう】(40ページ)をご覧ください。

## 3 SCSIボードのBIOSを「Wide転送を行う」設定にします。

方法の詳細は、お使いのSCSIボードの取扱説明書を参照してください。
設定しない場合、Wide転送されません。

※ 変換アダプタを使い、Narrow SCSI機器を接続した場合は、「Wide転送を行わない」設定にしてください。

## 4 SCSIボードでベリファイテストができる場合は・・・

本製品にベリファイテストをしてください。
方法については、SCSIボードの取扱説明書をご覧ください。



**弊社製の動作可能SCSIボードをお使いの場合**

サポートディスクから起動し、「ディスクユーティリティ」の[ディスクデータのベリファイ]を実行してください。

**ベリファイテストができない場合は**

お使いのOSごとに下の方法で本製品のテストをしてください。

・Windows Me/98
本製品をフォーマット後、「スキャンディスク」でエラーチェック（「チェック方法」は[完全]を選択）をします。

・Windows 2000、Windows NT 4.0
フォーマット時にベリファイテストされます。

## 5 本製品をフォーマットします。

はじめは、パソコン（SCSIボード）に接続しただけでは本製品を使えません。本製品をフォーマットしてはじめて使えます。

【フォーマットしよう】（次ページ）へお進みください。

# フォーマットしよう

本製品のフォーマットについて説明します。




**フォーマットする前に**

フォーマットすると、本製品に入っているデータはすべて消えます。
本製品に必要なデータがある場合は、そのデータを他の場所に保存してから
フォーマットしてください。




**パーティションについて**

フォーマットの際に、「パーティション」の知識が必要となります。
詳しくは、【パーティションの基礎知識】(44ページ)をご覧ください。

フォーマット手順は、お使いのOSによって異なります。
下表をご覧になり、それぞれにあったページをご覧ください。

| お使いのOS | 取り付け手順 | |
|---|---|---|
| Windows Me/98 | 【Windows Me/98でフォーマットする】 | 次ページ |
| Windows 2000 | 【Windows 2000でフォーマットする】 | 25ページ |
| Windows NT 4.0 | 【Windows NT 4.0でフォーマットする】 | 38ページ |

## Windows Me/98でフォーマットする

弊社製の動作可能SCSIボードをお使いの場合のフォーマット方法を説明します。



**他社製SCSIボードをお使いの場合**

フォーマット方法については、そのSCSIボードの取扱説明書をご覧になるか、SCSIボードのメーカーにお問い合わせください。

### 1 パソコンを「Command Prompt Only」で起動します。

**Windows Meの場合**

Windows Meの起動ディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、パソコンの電源を入れます。

メニューが表示されたら、「3」と入力して↵キーを押します。

**Windows 98の場合**

［Ctrl］キーを押したまま、パソコンの電源を入れます。

メニューから［Command Prompt Only］を選択します。

※メニューが表示されない時は、パソコンが起動している途中で［Ctrl］キーを押したり、はなしたりしてください。



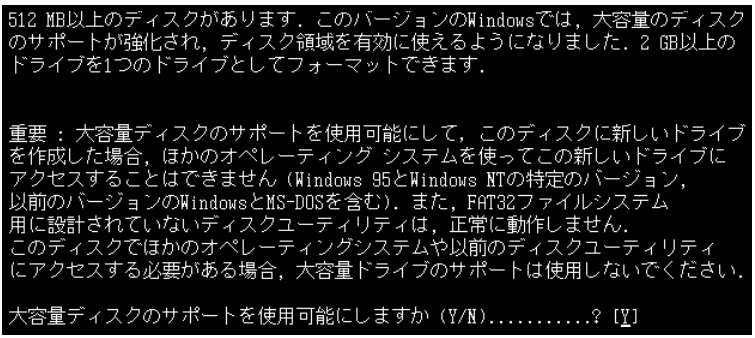
**Windows Meの起動ディスクを作るには**

①［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を開きます。
②［アプリケーションの追加と削除］アイコンをダブルクリックします。
③［起動ディスク］タブをクリックします。
④フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入して、［ディスクの作成］ボタンをクリックします。
※Windows MeのCD-ROMを要求されることがあります。
⑤「このディスクのファイルは全て削除されます」という内容のメッセージが表示されるので、［OK］ボタンをクリックします。
⑥進行状況の表示が消えたら、［OK］ボタンをクリックします。

### 2 FDISKと入力し、↵キーを押します。

## 3 下の画面が表示されます。

下の参考をご覧になり、「Y」か「N」を入力して↵キーを押します。




**画面が表示されなかった場合**

「Y」を入力したのと同じになります。次にお進みください。

**「Y」を入力した場合**

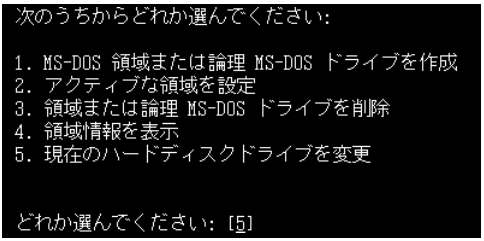
2047Mバイトを超えるパーティションを作成できます。
ただし、Windows NT 4.0などのOSからアクセスできなくなります。

**「N」を入力した場合**

Windows NT 4.0などのOSからもアクセスできます。
ただし、2047Mバイトを超えるパーティションを作成できなくなります。

## 4 「現在のハードディスクドライブを変更」を選択します。

「5」（現在のハードディスクドライブを変更）を入力し、↵キーを押します。

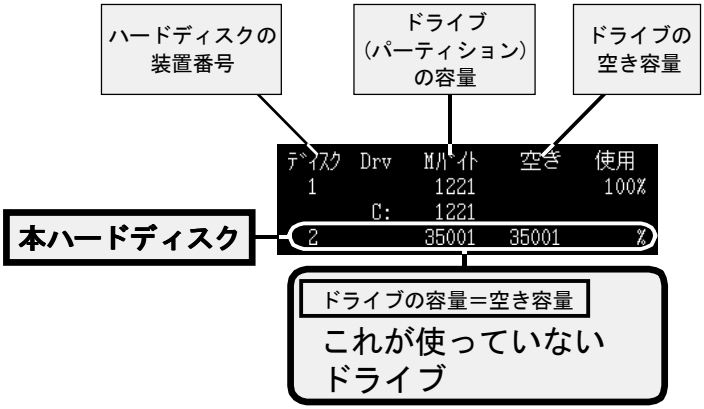



**[5]（現在のハードディスクドライブを変更）の表示がない**

[ESC]キーでFDISKを終了し、【・FDISKで[5]の項目が表示されない】(42ページ)をご覧ください。

## 5 本製品を選択します。

ドライブの容量とドライブの空き容量が同じであるハードディスクが本製品です。その装置番号を入力して、↵キーを押します。

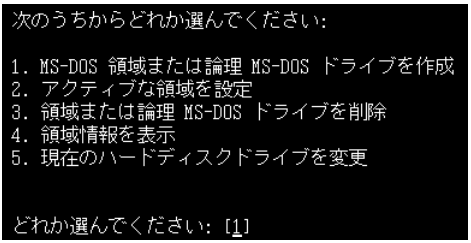



**使っていないドライブがない場合**

[ESC]キーでFDISKを終了し、【・FDISKで使っていないドライブが見つからない】(42ページ)をご覧ください。

## 6 「MS-DOS領域または論理MS-DOS･･･」を選択します。

「1」（MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成）を入力し、↵キーを押します。



## 7 「拡張MS-DOS領域を作成」を選択します。

「2」（拡張MS-DOS領域を作成）を入力し、↵キーを押します。

```
次のうちからどれか選んでください:

1. 基本 MS-DOS 領域を作成
2. 拡張 MS-DOS 領域を作成
3. 拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

どれか選んでください: [2]
```

## 8 本製品の全容量を指定します。

表示されている領域のサイズを確認し、↵キーを押します。

```
ディスクの総容量は 35001 Mバイトです. (1 Mバイト=1048576 バイト)
領域に割り当て可能な最大領域は 34993 Mバイト(100% ) です.


領域のサイズを Mバイトか全体に対する割合で(%)入力してください.
拡張 MS-DOS 領域を作ります.....................................: [34993]
```




**ここで指定する領域のサイズについて**

この後の手順で「拡張MS-DOS領域」内にいくつかの「論理ドライブ」を作成します。（次ページ参照）

ここでの領域のサイズ指定は、「拡張MS-DOS領域」内のすべての「論理ドライブ」の合計です。

「領域に割り当て可能な最大領域」（拡張MS-DOS領域用の空き容量）が1,000Mバイトあるのに700Mバイトしか指定しなかった場合、残りの300Mバイトは使えなくなります。

**「拡張MS-DOS領域」と「論理ドライブ」について**

「拡張MS-DOS領域」内に「論理ドライブ」を作らないと、そのままドライブとして使うことはできません。

## 9 下の画面が表示されますので、［ESC］キーを押します。

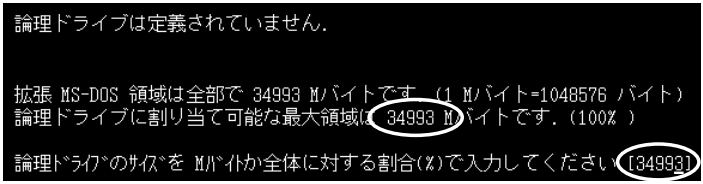
```
領域      状態      種類     ﾎﾞﾘｭｰﾑﾗﾍﾞﾙ    Mﾊﾞｲﾄ    ｼｽﾃﾑ      使用
   1              EXT DOS                 34993   UNKNOWN    100%


拡張 MS-DOS 領域を作成しました.


続けるには Esc キーを押してください._
```

## *10* 作成する「論理ドライブ」の容量を入力します。

「論理ドライブに割り当て可能な最大領域」で表示されている容量以下のサイズを入力し、↵キーを押します。




**手順*10*の画面が表示されなかった場合**

手順*1*～*7*までの作業をすれば、手順*10*の画面が表示されます。

**本製品を１つのドライブで使う場合は**

そのまま↵キーを押します。

**「論理ドライブ」の容量の入力方法について**

・サイズを［Mバイト］で指定する場合

指定したいサイズの数字のみを入力してください。

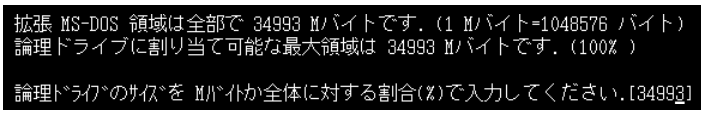
（例：1000Mバイトを指定したい場合は、「1000」と入力します。）

・サイズを［%］で指定する場合

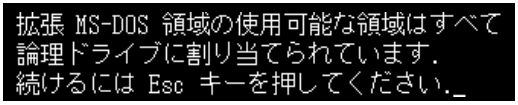
指定したいパーセンテージに「%」をつけて入力してください。

（例：30パーセントを指定したい場合は、「30%」と入力します。）

## *11* 残り容量が無くなるまで「論理ドライブ」を作ります。




**▲この場合は、手順*10*をもう一度行ってください。**




**▲この場合は、完了です。［ESC］キーを押します。**

## 12 ［ESC］キーを３回押します。

## 13 起動ディスクを取り出し、パソコンを再起動します。

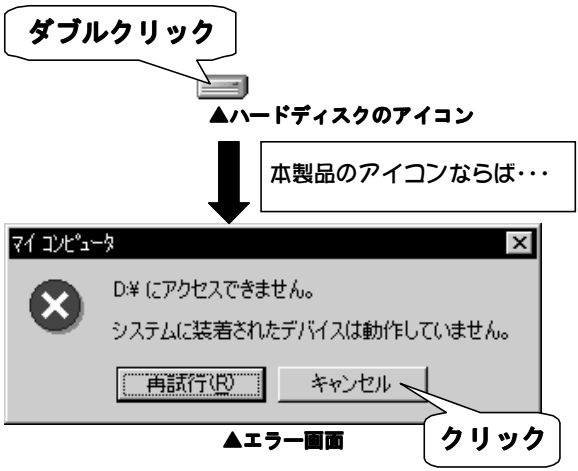
フロッピーディスクドライブから起動ディスクを取り出します。
［Ctrl］+［Alt］+［Delete］キーを同時に押し、パソコンを再起動します。

## 14 本製品のアイコンを確認します。

［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックし、「マイコンピュータ」を開きます。
表示されたドライブアイコンの中から本製品のアイコンを確認します。

**本製品のアイコンの確認方法**

ハードディスクのアイコンをダブルクリックし、エラー画面が表示されたアイコンが本製品のアイコンです。
本製品のアイコンを確認したら、［キャンセル］ボタンをクリックして、エラー画面を閉じてください。




## 15 表示された［フォーマット］をクリックします。

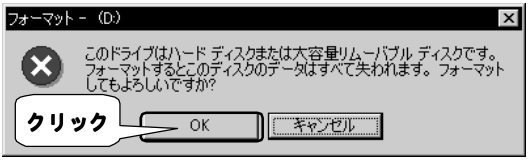
本製品のアイコンを右クリックし、表示された［フォーマット］をクリックします。

## *16* ［通常のフォーマット］でフォーマットします。

［通常のフォーマット］を選び、［開始］ボタンをクリックします。




## *17* ［OK］ボタンをクリックします。




## *18* フォーマットが終わったら、スキャンディスクをします。

フォーマットが終わると、画面上にヘルプが表示されます。
ヘルプの指示にしたがって、スキャンディスクを実行してください。

## *19* 作成した「論理ドライブ」の数だけフォーマットします。

まだフォーマットしていない「論理ドライブ」（本製品のアイコン）があれば、手順*14* からくり返してください。

## *20* パソコンを再起動します。

すべての「論理ドライブ」をフォーマットできたら、パソコンを再起動します。

**以上でフォーマットは終了です。本製品をお使いください。**

参考

**フォーマット後の確認**

フォーマット終了後、他の機器のドライブ名が変更される場合がありますので、各装置のドライブ名を再度ご確認ください。

## Windows 2000でフォーマットする

### ●ディスクの署名

Windows 2000でハードディスクを使うには、ディスクに署名をする必要があります。

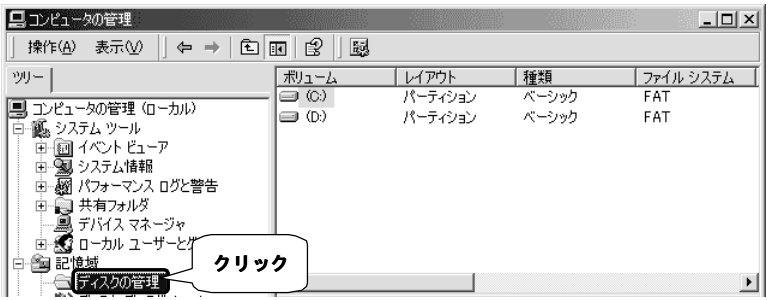
### 1 「コンピュータの管理」を起動します。

［マイコンピュータ］を右クリックし、表示された［管理］をクリックします。

### 2 ［ディスクの管理］をクリックします。

［記憶域］の下にある［ディスクの管理］をクリックします。

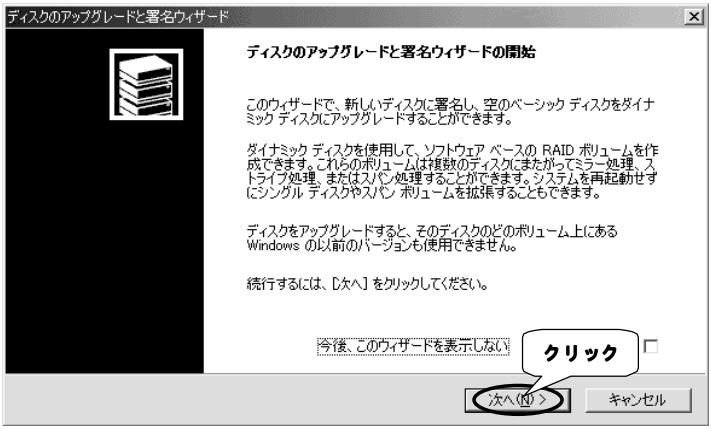
⇒「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」が表示されます。




**「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」が表示されない**

- 本製品が正しく接続されていません。
  【接続しよう】(13ページ)をもう一度ご覧ください。
- 表示されない設定になっています。
  本製品のアイコンを右クリックし、表示された［署名］をクリックしてください。
- 本製品は署名されています。
  【パーティションの作成とフォーマット】(28ページ)へお進みください。

## 3 ［次へ］ボタンをクリックします。




## 4 署名するディスクを選び、［次へ］ボタンをクリックします。




**署名をしてください**

署名をしないと、ハードディスクは使えません。

## 5 チェックを全てはずし、［次へ］ボタンをクリックします。




**ここでチェックしてしまうと・・・**

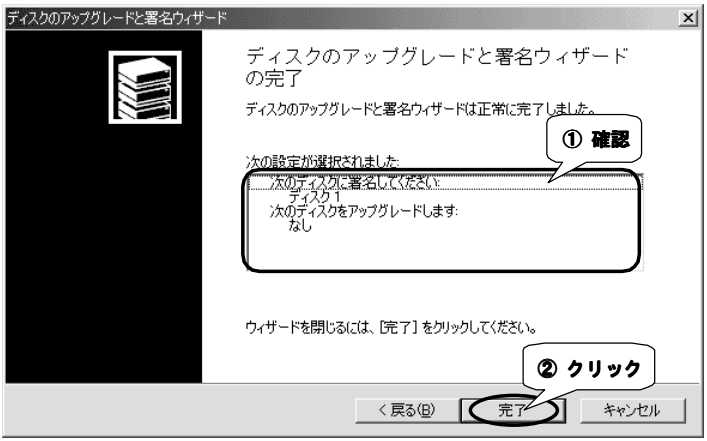
「ダイナミックディスク」となります。「ダイナミックディスク」は、Windows Me/98などで使えません。

詳細は、Windows 2000の取扱説明書、オンラインヘルプをご覧ください。

## 6 設定を確認して、［完了］ボタンをクリックします。

設定が正しいことを確認し、［完了］ボタンをクリックします。

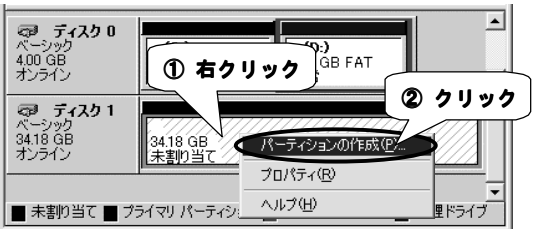
⇒署名が行われます。



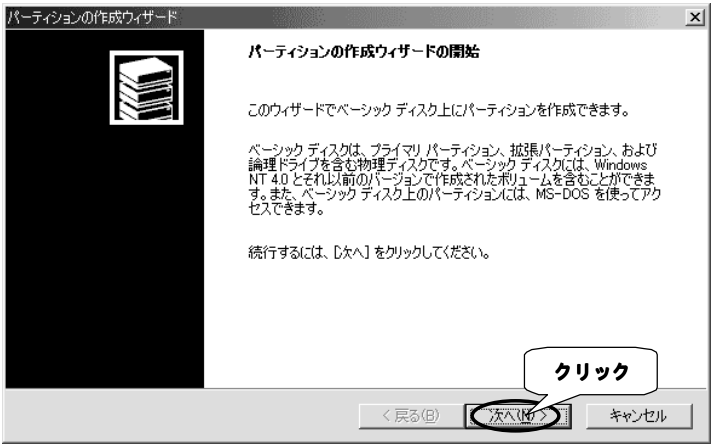
## ●パーティションの作成とフォーマット

### 7 「パーティションの作成ウィザード」を起動します。

フォーマットしたいハードディスクの未割り当ての領域を右クリックし、表示された［パーティションの作成］をクリックします。
⇒「パーティションの作成ウィザード」が起動します。

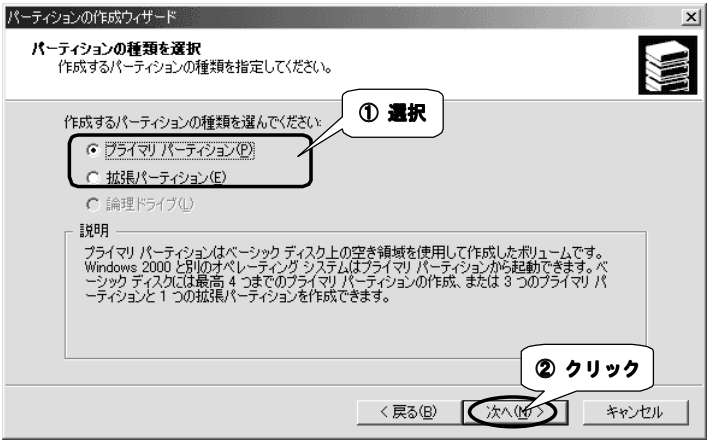



### 8 ［次へ］ボタンをクリックします。



## 9 作成する種類を選び、［次へ］ボタンをクリックします。

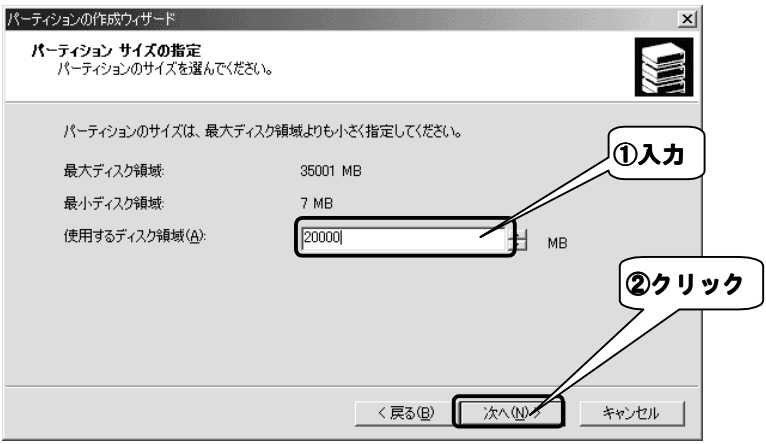
作成するパーティションの種類を選択します。
パーティションについては下に表示されている説明をご覧ください。
その後、［次へ］ボタンをクリックします。



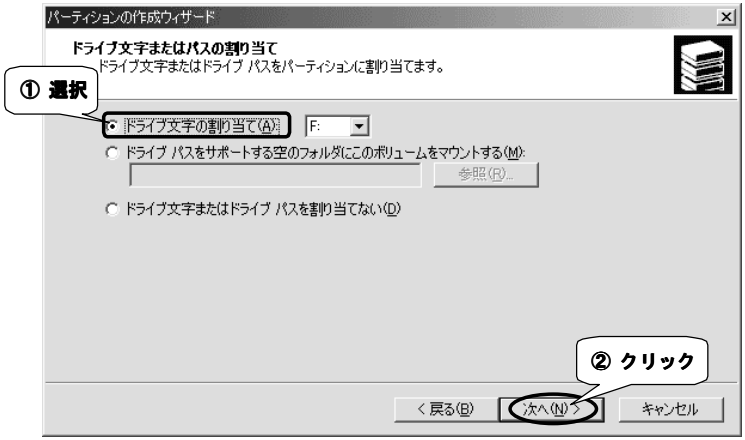

**パーティションの種類がよく分からない場合は･･･**
［プライマリパーティション］を選んでください。

## 10 使う容量を入力し、［次へ］ボタンをクリックします。

この後、プライマリパーティションを作成した場合は手順**11**へ、
拡張パーティションを作成した場合は手順**14**へ進みます。



## 11 ドライブ文字を選び、［次へ］ボタンをクリックします。




**ここでの選択**

［ドライブパスをサポートする空のフォルダにこのボリュームをマウントする］を選択することもできます。詳細は、Windows 2000の取扱説明書かオンラインヘルプをご覧ください。

## 12 フォーマットするように指定します。

［このパーティションを以下の設定でフォーマットする］を選択します。

➡ 画面例は次ページ

## 13 ファイルシステムの設定を行います。

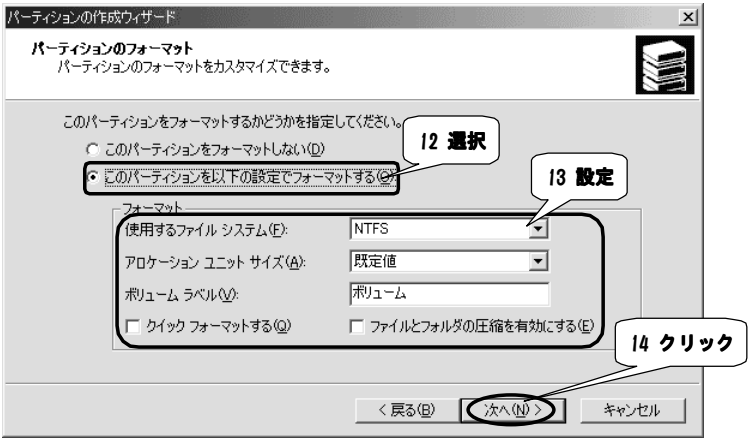
「使用するファイルシステム」項目を設定します。

➡ 画面例は次ページ

**設定したいファイルシステムがある場合**

手順*10*で［使用するディスク領域］を、ファイルシステムの最大容量以下に設定してください。最大容量については、【ファイルシステムとその特徴】(48ページ)をご覧ください。

## 14 ［次へ］ボタンをクリックします。

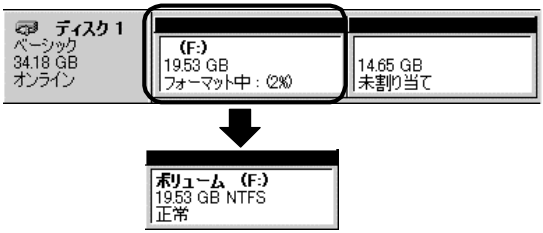



## 15 設定内容を確認して、［完了］ボタンをクリックします。



**・プライマリパーティションを作成した場合**

プライマリパーティションのフォーマットを開始します。
フォーマットには、容量に応じた時間がかかります。
フォーマットが終わると、「マイコンピュータ」に本製品のアイコンが表示されます。
以上でフォーマットは終了です。
フォーマット後は、再起動せずにそのまま本製品を使えます。




参考

**「未割り当て」の領域があまっている場合は･･･**
手順 **7** から、もう一度行ってください。

**作成したパーティションの次回からのフォーマットについて**
本製品のアイコンを右クリックし、表示された［フォーマット］をクリックします。

**・拡張パーティションを作成した場合**

拡張パーティションは、その中に「論理ドライブ」を作る必要があります。
【論理ドライブの作成】(次ページ)をご覧ください。

## ●論理ドライブの作成

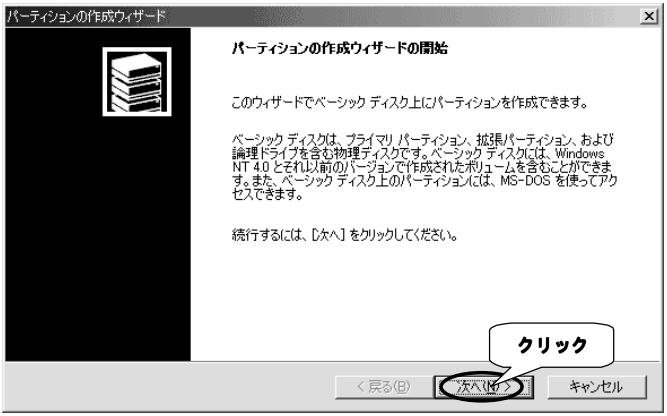
**プライマリパーティションを作成した方は**
ここでの作業は必要ありません。

### 16 「空き領域」に論理ドライブを作成します。

論理ドライブを作成する拡張領域の「空き領域」を右クリックし、表示された［論理ドライブの作成］をクリックします。

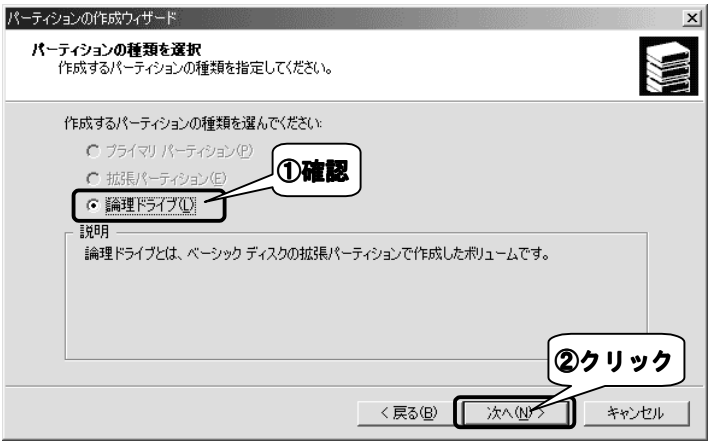



### 17 ［次へ］ボタンをクリックします。

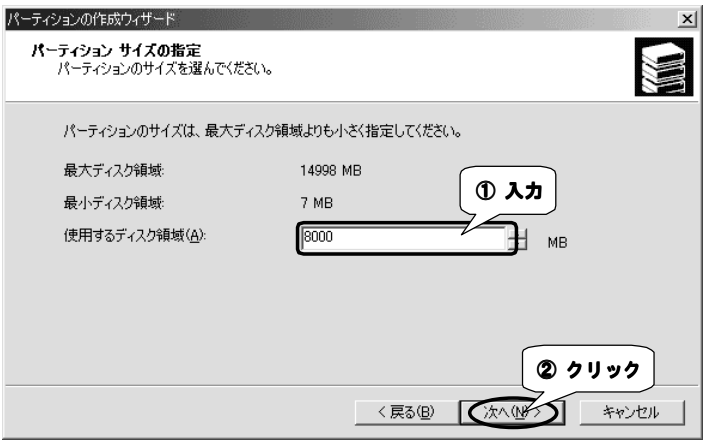


## 18 ［次へ］ボタンをクリックします。

このとき、［論理ドライブ］が選択されていることを確認してください。

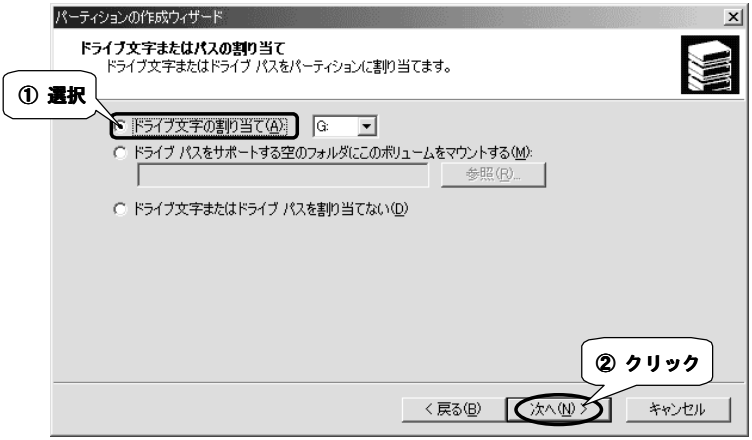



## 19 使う容量を入力し、［次へ］ボタンをクリックします。



## 20 ドライブ文字を選び、［次へ］ボタンをクリックします。

［ドライブ文字の割り当て］を選択します。その後、［次へ］ボタンをクリックします。




**ドライブ文字について**

［ドライブ文字の割り当て］の右にあるアルファベットが、論理ドライブのドライブ文字になります。通常、変更する必要はありません。

**他の選択について**

［ドライブパスをサポートする空のフォルダにこのボリュームをマウントする］を選択することもできます。詳細は、Windows 2000の取扱説明書かオンラインヘルプをご覧ください。

## 21 フォーマットするように指定します。

［このパーティションを以下の設定でフォーマットする］を選択します。

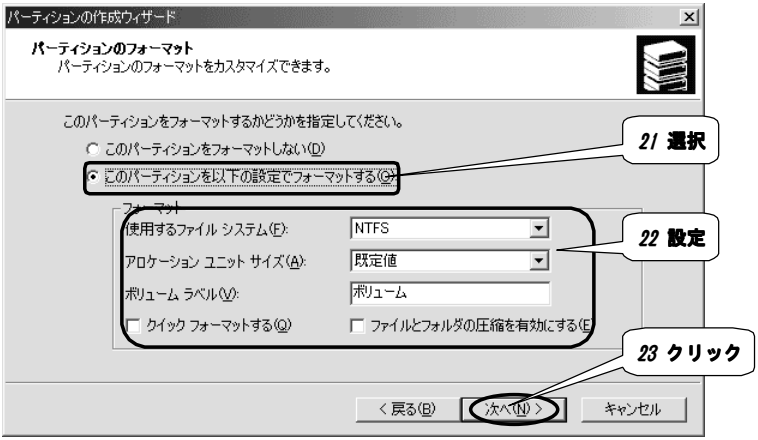
## 22 ファイルシステムの設定を行います。

フォーマットの中の「使用するファイルシステム」項目を設定します。項目の詳細については、Windows 2000の取扱説明書もしくはオンラインヘルプをご覧ください。

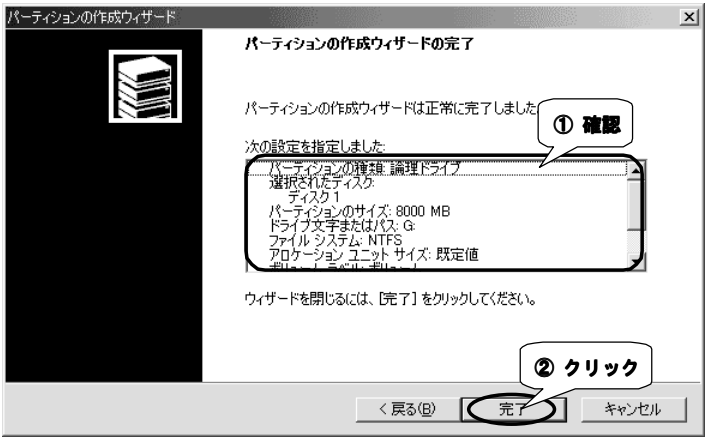
**選択したいファイルシステムがある場合は･･･**

手順**4**で［使用するディスク領域］を、ファイルシステムの最大容量以下に設定してください。最大容量については、【パーティションの基礎知識】(44ページ)をご覧ください。

## 23 ［次へ］ボタンをクリックします。

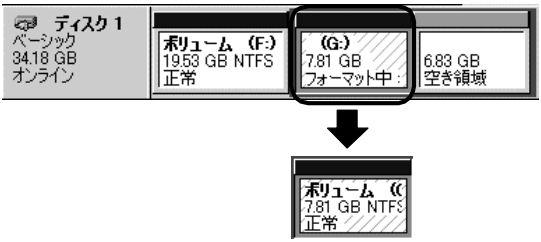



## 24 設定内容を確認して、［完了］ボタンをクリックします。



## 25 フォーマットされます。

論理ドライブのフォーマットを開始します。
フォーマットには、容量に応じた時間がかかります。
フォーマットが終わると、「マイコンピュータ」に本製品のアイコンが表示されます。




参考

**「空き領域」があまっている場合は・・・**
手順*16*から、もう一度行ってください。

**作成したドライブの次回からのフォーマットについて**
本製品のアイコンを右クリックし、表示された［フォーマット］をクリックします。

**以上でフォーマットは終了です。**
**フォーマット後は、再起動せずにそのまま本製品を使えます。**

## Windows NT 4.0でフォーマットする

［ディスクアドミニストレータ］を使ってフォーマットします。

### 1 Administrator権限でログインします。

### 2 ［ディスクアドミニストレータ］を起動します。

［スタート］→［プログラム］から［管理ツール］を開きます。
［管理ツール］→［ディスクアドミニストレータ］を選択します。

### 3 「ディスクｘに署名がありません」と表示されたら･･･

［はい］をクリックしてください。

### 4 作成するパーティションサイズを設定します。

①空き領域をクリックします。
［パーティション］→［作成］を選択し、作成するパーティションサイズを設定してください。
②［パーティション］→［直ちに変更を反映］を選択し、変更結果を保存してください。

### 5 本製品をフォーマットします。

「未フォーマット」のパーティションを選択し、［ツール］→［フォーマット］を選択してください。［ファイルシステム］と［ラベル］を設定し、［OK］をクリックしてください。確認画面が表示されるので、［はい］をクリックしてください。

**以上でフォーマットは終了です。**
**フォーマット後は、再起動せずにそのまま使えます。**

# 付録

**困った時には** ・・・・・・・・・・・・・・・ **４０**

本製品を使っていて、異常があったときにご覧ください。

**パーティションの基礎知識** ・・・・・・・・・・・・・・・ **４４**

パーティションの基礎知識について説明します。

**別売オプション品** ・・・・・・・・・・・・・・・ **４９**

弊社 別売オプション品をご案内します。

**ハードウェア仕様** ・・・・・・・・・・・・・・・ **５０**

本製品の仕様を説明します。

# 困った時には

本製品を使っていて、異常があったときにご覧ください。

## パソコン起動時のトラブル

### パソコンが起動途中で止まってしまう

**原因1　本製品か他のSCSI機器が正しく接続されていない**

パソコンおよびすべての周辺機器の電源を切り、本製品を含むすべてのSCSI機器の接続（ケーブルやターミネータなど）を確認してください。

**原因2　本製品のSCSI-IDが重なっている**

パソコンおよびすべての周辺機器の電源を切り、SCSI-IDが他のSCSI機器と重ならないように設定し直してください。

**原因3　SCSIボードが本製品の容量に対応していない**

SCSIボードの取扱説明書をご覧になるか、メーカーにお問い合わせになり、本製品の容量に対応しているかをご確認ください。

**原因4　SCSIボードが本製品を認識しない設定になっている**

SCSIボードのBIOS設定で、本製品のSCSI-IDを認識するように設定してください。詳しくは、SCSIボードの取扱説明書をご覧ください。

**原因5　SCSIの環境が不安定である**

本製品と接続機器の接続順序や、接続ケーブルをご確認ください。詳しくは、SCSIボードの取扱説明書をご覧ください。

## ［マイコンピュータ］に本製品のアイコンが表示されない

### 原因１　フォーマットされていない

**弊社製SCSIボードをお使いの場合**

フォーマット後、再起動してください。

**他社製SCSIボードをお使いの場合**

お使いのSCSIインターフェイスの取扱説明書をご覧になるかSCSIインターフェイスのメーカーにお問い合わせください。

### 原因２　SCSIボードが認識されていない

本製品を使うには、SCSIボードがパソコン(OS)に正常に認識されていなければなりません。確認および設定方法については、SCSIボードの取扱説明書を参照するか、または各メーカーへお問い合わせください。

## フォーマット時のトラブル

**・FDISKで[5]の項目が表示されない**
**・FDISKで使っていないドライブが見つからない**

### 原因１ 本製品が認識されていない

【パソコンが起動途中で止まってしまう】(40ページ)をご覧ください。

### 原因２ BIOSのないSCSIボードに本製品を接続している

FDISKでは領域確保はできません。各SCSIボードに付属の取扱説明書を参照し、領域確保を行ってください。

### 原因３ SCSIボードのBIOSを使わない設定にしている

SCSIボードのBIOSを使う設定にした後、再度FDISKを行ってみてください。
詳しくは、SCSIボードの取扱説明書をご覧ください。

### 原因４ SCSIボードが本製品の容量に対応していない

SCSIボードの取扱説明書をご覧になるか、メーカーにお問い合わせになり、本製品の容量に対応しているかをご確認ください。

## 使う上でのトラブル

**・使っている最中にデータエラーが発生する**
**・アクセスランプが点灯したままハングアップする**

**原因** **ケーブル長が長い、ケーブル類の品質が悪い、電気的なノイズの影響を受けている等の理由で、SCSIバスの状態が悪い**

SCSIボード側の設定で本製品の同期転送速度を下げてください。
詳しくは、SCSIボードの取扱説明書をご覧ください。

**本製品から起動できない**

**(DOS/Vマシン)**

**原因1** **SCSIハードディスクから起動できないパソコンである**

SCSIハードディスクから起動できるかどうか、パソコンメーカーにお問い合わせください。

**原因2** **起動用のIDEハードディスクがある**

起動用のIDEハードディスクは取り外す必要があります。

**原因3** **BIOSの無いSCSIボードで本製品を使っている**

本製品をBIOSの無いSCSIボードで使う場合は、起動用とすることはできません。

**原因4** **本製品よりも小さいSCSI-IDのSCSIハードディスクを接続している**

本製品のSCSI-IDを他のSCSIハードディスクよりも前にする必要があります。

**原因5** **本製品よりも小さいSCSI-IDに起動用のSCSI機器を接続している**

本製品のSCSI-IDを他のSCSI機器よりも前にする必要があります。

# パーティションの基礎知識

パーティションの基礎知識について説明します。

**パーティションを作らないと本製品は使えません**

本製品に限らず、通常１台のハードディスクは１つまたはそれ以上のパーティション（区画領域）を作らなければ、使うことができません。

## １つのパーティション＝１つのドライブ

ハードディスクのパーティションは、作成したパーティション単位にドライブ名が割り当てられます。

## パーティションの種類

### ●Windows Me/98/NT 4.0の場合

パーティションには以下の2つがあります。

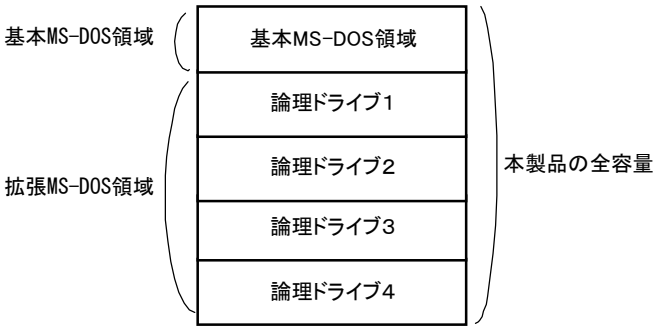
**・基本MS-DOS領域**

「基本MS-DOS領域」は1つしか作成できません。また、ハードディスクを増設用として使う場合には、「基本MS-DOS領域」を作成せず、「拡張MS-DOS領域（の論理ドライブ領域）」だけを作成することもできます。

**・拡張MS-DOS領域の論理ドライブ領域**

「拡張MS-DOS領域の論理ドライブ領域」は、「拡張MS-DOS領域」内に作成します。複数作成することができます。

**本製品内に「基本MS-DOS領域」が１つと「拡張MS-DOS領域」内に論理ドライブが４つある例**



## ●Windows 2000の場合

パーティションには以下の2つがあります。

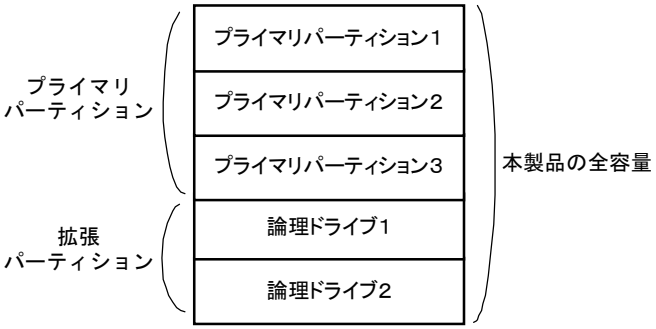
**・プライマリパーティション**

「プライマリパーティション」は４つまで作ることができます。
ただし、「拡張パーティション」を作る場合は３つまでとなります。

**・拡張パーティション**

「拡張パーティション」は１つ作ることができます。「拡張パーティション」内に、プライマリパーティションと同じように使える論理ドライブを複数作ることができます。論理ドライブを複数作ることにより、ハードディスクを４つ以上に分けることができます。

**本製品内に「プライマリパーティション」が３つと「拡張パーティション」内に論理ドライブが２つある例**



## ドライブ名が変わることがあります



**Windows 2000,Windows NT 4.0を除きます**

本ページの内容は、Windows 2000,Windows NT 4.0を除きます。
それらのOSをお使いの場合は、読み飛ばしてください。

### ●ハードディスクのドライブ名が変わるパターン

**・パソコンにすでに接続されているハードディスク**

「基本MS-DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」がある

**・本製品**

「基本MS-DOS領域」がある

上の２つの条件が揃った場合、ドライブ名が変わってしまいます。



**ドライブ名が変わる理由**

「基本MS-DOS領域」は「拡張MS-DOS領域」よりも優先されます。
従って、本製品に「基本MS-DOS領域」があった場合、パソコンにすでに接続されているハードディスク内の「拡張MS-DOS領域」よりも優先されます。
そのため、ドライブ名が変更されます。

**ドライブ名を変えたくない場合は**

ドライブ名を変えたくない場合は、本製品には「拡張MS-DOS領域」のみを作ってください。

### ●ハードディスク以外のドライブ名が変わるパターン

例えば、CD-ROMドライブの場合、本製品フォーマット後、取り付けた本製品のドライブ名が内蔵ハードディスクとCD-ROMドライブのドライブ名との間に入ります。



**ドライブ名が変わる理由**

本製品フォーマット後は、CD-ROMのドライブ番号を指定したバッチファイルなどがある場合は新しいドライブ番号に変更してください。
また、CONFIG.SYSにLASTDRIVEの設定が必要となる場合があります。

## ファイルシステムについて

ファイルの管理方式のこと。パーティションは、何らかのファイルシステムを元に作成される。

## OS毎の使用できるファイルシステム

OSによって、使用できる（作成できる）ファイルシステムが異なります。
複数のOSでハードディスクを併用する際のパーティションの作成時には、下の表を参照して併用できるファイルシステムを確認してください。

例えば、Windows MeとWindows 2000では、「FAT32」「FAT16(FAT)」のファイルシステムでハードディスクにパーティションを作成（フォーマット）すれば併用できます。（「NTFS」でパーティションを作成すると併用できなくなります。）

| 使用OS(バージョン) | ファイルシステム | | |
|---|---|---|---|
| | NTFS | FAT32 | FAT16 (FAT) |
| Windows Me | × | ○ | ○ |
| Windows 98 | × | ○ | ○ |
| Windows 2000 | ○ | ○※1 | ○※2 |
| Windows NT | ○ | × | ○※2 |

○：使用可　×：使用不可

※1 作成できる容量と認識できる容量が異なることにご注意ください。
※2 他のOSと併用する場合には、１パーティションのサイズを「2047Mバイト」以下に設定する必要があります。

## ファイルシステムとその特徴

| ファイルシステム | 特徴 |
|---|---|
| NTFS | １パーティションあたりの最大容量は、「約408,000,000Tバイト」です。<br>ただし、Windows Me/98ではアクセスできません。 |
| FAT32 | **Windows 2000**<br>１パーティションあたりの作成できる最大容量は、「約32Gバイト」です。<br>ただし、Windows Me/98でフォーマットされたFAT32のパーティションを「約2Tバイト」まで認識できます。<br>**Windows Me/98**<br>１パーティションあたりの最大容量は「約2Tバイト」です。 |
| FAT(16) | **Windows 2000,Windows NT 4.0**<br>１パーティションあたりの最大容量は、「約4Gバイト」です。<br>ただし、Windows 98などで使用する場合は、「2,047Mバイト」までにする必要があります。<br>**Windows Me/98**<br>１パーティションあたりの最大容量は、「2,047Mバイト」です。 |

# 別売オプション品

弊社 別売オプション品をご案内します。

## SCSIケーブル

| 型番 | 長さ | タイプ |
|---|---|---|
| A68-A68 | 75cm | SCSIケーブル（D-sub/ハーフピッチ68ピン⇔D-sub/ハーフピッチ68ピン） |
| A68-A68-M | 50cm | |
| A68-A68-S | 30cm | |

## アクティブターミネータ

| 型番 | タイプ |
|---|---|
| TA-A68U2 | LVD & SE(Single Ended)両対応アクティブターミネータ（D-sub/ハーフピッチ68ピン） |

# ハードウェア仕様

本製品の仕様を説明します。

| | HDX-S36C |
|---|---|
| データ容量※ | 約36Gバイト |
| ディスク回転速度 | 10022rpm（±0.5%） |
| 平均シークタイム | 5.6msec |
| セクタサイズ | 512バイト |
| データバッファ | 4096Kバイト |
| アクセスタイム(Read) | 5.6ms（平均） |
| (Write) | 6.4ms（平均） |
| 外形寸法 | 36(W) × 265(D) × 122(H) mm |
| インターフェイス仕様 | Ultra160 SCSIインターフェイス<br>(D-subハーフピッチ68ピン) |
| データ転送速度(Max) | Ultra160 SCSI:160M/バイト/Sec（同期転送理論値） |
| 電源仕様 | AC100V±10% 50/60Hz |
| 消費電力 | 約23.8W |
| 使用温湿度範囲 | 温度 +5～+35℃（パソコンの動作する範囲であること）<br>湿度 20～80%（結露なきこと） |
| 本体重量 | 約1.6kg |

※アンフォーマット時1M/バイト=1,000,000/バイトで計算したときの値を示しています。
フォーマット後は、容量が若干減少します。

# サポートセンターへのお問い合わせ

## ■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名。
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(起こったタイミング、本製品や画面、メッセージなどについて)。

## ■オンライン

| | |
|---|---|
| インターネット | **http://www.iodata.co.jp/support/** |

## ■郵便

住所　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器サポートセンター
「HDX-S36C」係　宛

## ■電話・FAX

| | |
|---|---|
| 電話番号 | 金沢　076-260-3367　東京　03-3254-0340 |
| 電話受け付け時間 | 9:30～19:00　月～金曜日(祝祭日を除く) |
| FAX番号 | 金沢　076-260-3360　東京　03-3254-9055 |

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターのみで行っています。予めご了承ください。

# 修理について

## 修理の前に

故障かな？と思ったときは、
①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
②弊社サポートセンターへお問い合わせください。
（【サポートセンターへのお問い合わせ】をご覧ください）

明らかに故障の場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

## 修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

### ●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

### ●修理金額について

・保証期間中は、無料修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。
**※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。**

・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。
**※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。**

・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）
修理しないとご判断いただきました場合は、無料でご返送いたします。

## 修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

### ●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、ハードウェアシリアルNO.、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

### ●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）

**※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。**

・下の内容を書いたもの

**返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］,日中にご連絡できるお電話番号,**
**ご使用環境（機器構成、OSなど）,故障状況（どうなったか）**

### ●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。

・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。

**※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。**

### ●修理をご依頼ください

・修理は、販売店へご依頼いただくか、下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。

**※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。**

・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理係　宛

## 修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。

**※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。**

・修理品の返送日については以下の窓口にお問い合わせください。

### ●サービス窓口

お問い合わせの際は、ご依頼の際にメモに控えた内容をお伝えください。

電話番号　076-260-3663
受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

HDX-S36C 取扱説明書
2001.Aug.29 96106-01
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

© 2001 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品および本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。